

# じゅど新聞

JADDO 第4号

1994年 4月 10日 発行

## JADDO

アジアの子ども達を援助する会

事務局：〒895 鹿児島県 川内市 神田町 11-20

若松記念病院となり 寿泉堂薬局

TEL. 0996-20-1402

## ドンカラム村小学校に井戸が完成しました。

1993年10月に届けた760 \$でドンカラム村小学校校庭に井戸が出来ました。3月5日に完成式がありました。

小学校の隣はお寺で、村の家々がすぐに続いています。おかげで、小学校の井戸を村の半数の家々が利用できることになりました。

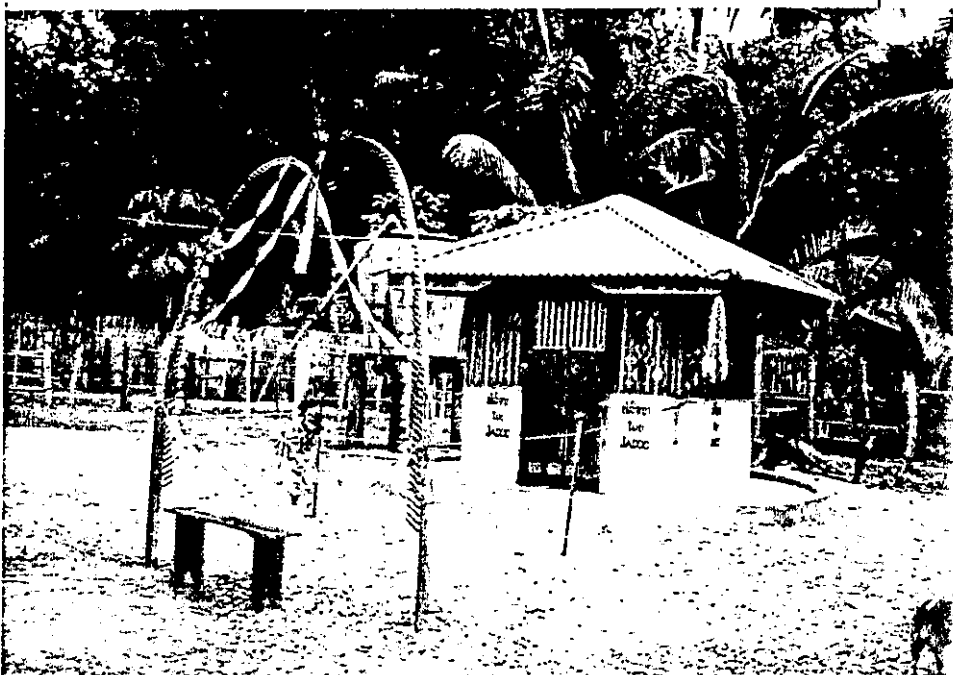
村人たちの希望どおりに電気ポンプを付けましたが、私は電気代を心配していました。けれども、使う量は日本とは比べものにならないくらい小量で、しかも大勢の村人で負担するから少額ですむはずとクーアン村長から説明があり安心しました。

また、水くみは子供たちの仕事です。この重労働から開放されることになり喜んでくれました。ラオスでは子供がよく働いています。4-5才の子供から赤ん坊をだっこしていますし、お皿洗いから畑の手伝い、そして夕方には村外れで草を食べている牛を集めて家に連れて帰ります。

井戸から家まで水運びをするのはやはり子供でしょうが、少しは楽になったと思います。

なにより、学校ですぐに水が飲めるようになりました。水質は良さそうですが数ヵ月後に(セメントなどの影響がなくなってから)日本の専門家に水質検査をしてもらう予定です。

なおこの井戸掘および完成式典の費用は川内青年会議所からの寄付金で賄いました。ありがとうございました。



完成した井戸（屋根つき）と貯水タンク（左側）お祝いのアーチ



校庭の木陰での完成祝いの式（後の校舎の壁がほとんど無い！）

## 完成記念式典

3月5日にドンカラム村小学校校庭にて井戸の完成記念式典が行なわれました。

小学校長、中学校長に村長を始め村の政治的有力者、それに教育委員会会長とビエンチャン郡副衛生部長の参加もあり、盛大なものでした。

学校長（中学校長）からお礼のことばがあり、PTA会長から決算報告がありました。井戸掘削は業者に依頼したが井戸周囲のセメントはりや屋根つき小屋等は村人が労力を提供したとのことでした。私からお祝いのことばおよび記念式典のお礼を告げました。

その後井戸のテープカットがありました。表ページの写真でご覧のように井戸の周囲をテープで囲み正面は椰子の葉に白いチャンパの花を飾り付けたアーチを作っております。写真ではベンチで通れないようにしてありますが、この場所でドクター・ソムサナと私がテープカットを行い、井戸の小屋を開けて中のポンプのスイッチを入れました。小屋の入り口は鍵がかけられ子供の安全とスイッチの管理に配慮されていました。

式典とテープカットの後はパーシーの儀式です。パーシーはラオス独自の儀式で藤と竹で編んだ台の上に銀の鉢を置き花で飾ります。銀の鉢の周囲にはお菓子と米も飾ります。また、20センチくらいの糸をたくさんと1メートル位の糸数本を結びつけた竹ひごも銀の鉢に刺します。この糸はあらかじめお寺でお祈りがしてある特別な糸です。

村の長老を中心にこの台の周りを参加者がとり囲みます。長老と前列の参加者が銀の鉢の長い糸を合掌した手の間に持つと、長老が祈禱をはじめます。糸を手になつた参加者は、糸を持つ人の体に触れながら長老の祈禱を聴きます。祈禱が終わるとめいめいで銀の鉢の短いほうの糸を竹ひごからはずし、互いの幸運、健康を祈りながら手首に糸を巻きあいます。この糸は3日間はずしてはいけません。

ラオスではお祝い時、歓迎壮行、正月、年忌、入院、退院など何かにつけてパーシーが行なわれます。

パーシーの後は昼食会となり楽しい時を過ごしました。



蛇口から出る水を珍しがっている子供

式にはJICAから派遣されている下村氏（水道専門家）、野崎氏（医療専門家）、小谷氏（調整員）、中村氏（医療専門家）が参加くださり、寄付をいただきました。



パーシーの準備をする女性たち